

総社市地域公共交通会議 会議録

令和2年1月30日（木） 10:00～11:30
総社市図書館 3階 展示ホール

出席者：

総社市地域公共交通会議委員：12名

〃 専門員：6名

事務局：11名（交通政策課，地域応援課，都市計画課，政策調整課，土木課，観光プロジェクト課，長寿介護課）

コンサルタント：2名

【開会】

出席者12名，委任状2名 過半数超え会議成立

・会長あいさつ

議題「2. 総社市総合交通戦略の策定について」

事務局説明「①事業イメージの確定，②業績評価指標，③計画の推進に向けて」

委員：（P100 4. ②）レンタサイクルの推進で，「数値を上げるうえでPRをしていく」と説明があったが具体的に，どういった手段で観光客にアピールをするのか。

事務局：市として考えているのが，まずは服部駅での導入ができないか。服部駅は備中国分寺，鬼ノ城，砂川公園，西に行けば宝福寺がある。そういった，現在はないところへの導入を考えている。更には，将来的に観光拠点となるような道路や鉄道が整備された場合には，新しいレンタサイクルの設置について考えている。PRの方法については市ホームページや観光パンフレットの作成もそうであるが，観光パンフレットについては多言語で対応したものを作成し，インバウンドを意識して外国人の方にも利用しやすいものを作り，それを利用する事により，どんな見どころがあるのか，どこにお店があり，どのような行程で行くと楽しめるのか，というようなプランについても考えていきたい。

委員：鉄道を通勤で使おうとすると，総社市は駅まで行く交通機関がない。自転車で行ける範囲の人には駐輪場を整備することで有効かと思う。ただ，自転車では距離がありすぎる方は，自動車を使うので駅周辺には駐車場が必要になる。そのために土地確保が出来る駅と，なかなか出来ない駅がある。例えば東総社駅ですと大きく駐車場を作ることは難しい。鉄道の利用促進となると通勤であり，あとは観光客である。その場合に単純にPRするだけでは来ていただけない。そうすると観光PRを外的に行い，それを受け入れる二次交通が整備されていないと「不便である」という評価でイメージが落ちてしまう。

井原鉄道の利用も若干であるが増やそうというのは，単純に通勤で利用する人が増えるだけでなく，総社市と井原鉄道沿線の観光地と連携を取って，例えば矢掛町の宿場町「総社に来て終わり」だけでなく「総社から矢掛に行く」というようなルートを作って利用者を増やしていく。そういった連携し

たことを考えないといけないと思う。

事務局： 駅周辺の駐輪場・駐車場の整備，また二次交通の整備については，本市としても「駅周辺が賑やかな街」を考えていきたい。そのために市営で難しい場合には，民間駐車場に協力をお願いしたい。

井原鉄道の利用者としては，「総社駅で降りるお客様」も大切ですが，「総社駅から乗るお客様」も重要と考えている。現実的に難しいのかもしれないが，サイクルトレインが出来ないかなど，色んなアイデアを井原鉄道とともに考えていきたい。

委員： 観光との連携と提案があったが，観光協会としても各自治体と連携しながら，観光客を増やしていきたい。昨年11月，試験的に土日の観光タクシーを利用の方に半分補助を行い，3件の利用であった。これはPR不足が考えられる。令和2年度四半期ごとに年4回ほど実施したい。これはPRをいかに行うかで利用促進に繋がる。鬼ノ城に行くと往復で1万円以上掛かるので負担を緩和して，観光客増加をしていきたい。

また，総社駅前がさみしいので，拠点となるところをしっかりと作って，そこから色んな方面に動いていくというようにする必要があるのではないかな。それは，目標3の「誰もが外出しやすい環境を整備する！」のところにも繋がってくると思う。市役所周辺だけでなく，過疎になっているところは分館などの拠点にして，そこに集まれるような交通手段を考えたい方がいいのではないかな。過疎であっても，そこに集まれば楽しく色んなことができる，そこから中心部に行ける交通システムを考えたい方がいいのではないかな。

事務局： 観光二次交通のPRについては，市の方もできるだけ一緒に取り組んでいきたい。

停留所を公民館や分館にするかたちにするということについては，それが地域コミュニティの活性化にも繋がっていくので，参考にさせていただきたい。

委員： 公共交通を中心に置いて，それを色んなものと点で結びながら一体的に考えていかなければならない。具体的に言えば，観光資源，自然資源や社会資源を引き出してみる必要があるのではないかな。様々な産業との関わりを見ながら，全体的に考えていく必要がある。その中に利便性を追求していくこととなる。まだハッキリしていないかもしれないが，美術博物館構想もあり，この10年の後半で出てくるのではないかな。そのあたりも考えられる範囲で頭に入れて進めていく必要がある。過疎地の対策との関わりについても，今後考えられる範囲で考えていく必要があるのではないかな。

福祉の立場からいうと，全体の大きな計画策定の背景と目的の最初のところに書いてあるが，「住んでいる人，誰もが快適に公共交通を使える」という形をどうしても作っていく必要がある。障がい者，高齢者もみんなと同じように使えるシステムが必要。快適に，しかも安心して安全に使えることができるということで，具体的に一つ言ってみると，雪舟くんは車いすの人とか身体障がいのある人が利用しにくい。ぜひとも雪舟くんの何台かのうち1台を，そういう人が乗れる仕組みにするなど，前向きに考えて，計画全体がバリアフリーであり，ノーマライゼーションであるという考えを持っていて欲しい。市が運行している雪舟くんだけでも考えていて欲しい。

事務局： 農業や工業といった各事業と観光での関わりで言うと，例えば総社市ではブドウ，マスカット，更にはセロリなどの農業体験，工業においてもウィングバレイや山崎製パン，紀文の工場の体験的な見学を観光に組み込んでいくことが良い形ではないかと考えている。また，美術博物館については，構想が具体的になったときには見直しの時点で取り込んでいきたい。

雪舟くんは車いすの方が乗れるようにすることについては，本計画の理念として「全国屈指の福祉文化先駆都市を支える交通まちづくり」となっている。その中で現在ある福祉有償運送と連携しながら

ら、こういった形が雪舟くんにとって良いものなのかを考えていきたい。

委員：今現在、車いすの方は付き添いがある場合には雪舟くんに乗れるのか？

事務局：現在は乗車できない。手押し車を利用の方はご自身の足元などに置けるのであれば利用可能。

専門員：駅の整備に伴い交通の流れが変わると考えられる。今まで渋滞してなかったところが渋滞するなど。警察としては安全で、なお且つ、渋滞のないスムーズな流れを目指しているの、そのような計画があれば、早めに相談をしていただきたい。信号機の新設や秒数の見直しについては交通の流れを円滑にするためには避けられないものであるが、信号機設置に対する岡山県警の考え方としては、信号機が増えすぎているため、新設については難しい状況になっている。また、不要な信号機の撤去を進めるようにしている。総社市内についても現在、検討をしているところであり、具体的などころまでは至っていないが、考え方について委員の方々には理解をしておいていただきたい。今までは設置していたような交差点についても、横断者の待ち場が確保できていない場所は危険であるため設置をせず、別の方法で安全を確保するという考え方になっている。新しい道路整備の計画ができた場合には早めに警察署の方へ知らせていただきたい。

事務局：駅の整備によって交通の流れが変わることが将来考えられる。随時、状況について報告するので、相談に乗っていただきたい。

専門員：総社市の現状を見ると鉄道網は充実しているが、駅からの二次交通が弱く、あまりにもバスの本数が少ない。雪舟くんではなく、定時で走る路線バスが少ない。駅からの二次交通として定期バス路線を増やすべきではないか。放射状方向には動けるが環状方向に動けない。これも市中心部の回遊性を高めると事業イメージに記載してあるので、今後、市内の主要拠点を巡るようなグループバスなどを導入することを考えると良いのではないか。そのためにバス停など道路整備が必要であれば、県としても協力をしていく。

事務局：駅への二次交通を充実していかなければ、目標に掲げている利用者数も増えていかない。また、駅周辺の街の衰退にも繋がるので計画を通して、雪舟くんを始めとする二次交通、定時型の路線バス等を検討していきたい。

専門員：雪舟くんの予約お断り件数の1日15件は多く感じた。車両が出払っていて、回せる車がなくて予約を断っている状況なのか。それであれば台数を増やすという計画はないのか。

事務局：雪舟くんのお断りについては、予約に応じてルートを決定する際に、そこを回れないと理由でのお断りもある。台数を増やすということについては、どの程度増やせばお断りがゼロになるのか、システムの変更と併せて考えていきたい。

専門員：総社市では現在、立地適正化計画も併せて策定していると思う。現在、総社市の人口は微増であるが、今後は必ず人口減少、高齢化社会を迎える。その中で鉄道や二次交通は重要になる。計画の中で新たな目標を定めて進めていくようになるが、地域公共交通会議の充実として年4回の開催について、どのように考えているのか分からないが、計画はその通り進んでいくとは限らないので、会議を充実させてブラッシュアップをして、総社市の公共交通の維持、街作りを進めていっていただきたい。

事務局：地域公共交通会議の開催については計画期間中、毎年、計画のPDCAを実施することから年4回の開催を目標としている。年によって計画の調整や見直しを重点的に4回開始したい。

専門員：(P100 2. ②) JRと井原鉄道の1日あたりの利用者数は総社駅だけか？それとも総社市内の駅全てを含めた乗降者数なのか？そうであれば、指標に記載したほうが良いのではないか。

LR T化が整備できて開業するのは計画期間から外れるところになると思うが、目標値を設定するよりも、達成するための具体的な取り組みを記載するほうがいいのではないかと。

事務局：利用者数について、JRは市内7駅の合計と井原鉄道は総社駅と清音駅の合計としている。指標への記載についてはこれから考えさせていただきたい。

目標達成期間との関係性については、LR T基本計画を策定中であるので、3者との協議で少しずつ先が見えてくるので、開業に合わせて考えていきたい。

専門員：P82の表になっている事業内容とP86以降の個別のとの関係は？一覧表になっているものは取り組んでいくが、P86以降のものは更に具体的に記載している、ということで良いかと。

事務局：P86からの事業イメージについては、重点的に市として取り組んでいきたいものについて記載している。P82～84についても、事業イメージには上げていないが取り組んでいくもの。

専門員：(P82)利用者を増やすためのPRなどを記載するほうが、具体的に何をやるのかハッキリするのではないかと。P100の1であれば、雪舟くんのことだけではないと思う。それ以外の指標も、例えば市内の公共交通機関利用者といった形で見ていった方が目標の達成度が分かる。

また、中間目標値がR4年度になっているが、計画が10年であるので中間でいうとR7年度になると思うので、R4年度にする関係性が分かりにくい。

(P102)毎年、評価を検証しながら次に繋げていくことは大切であるが、見直しのことを「5年経過後」と記載している。P101のところ「毎年、把握を行って必要に応じて計画の改善を図る」とあるが、計画の見直しと改善は違う意味合いなのか。

事務局：利用者を増やすためのPRについてももちろん大切で取り組んでいくが、そこへつなげる環境にも取り組んでいきたい。

市内公共交通利用関係者については、現在の状況では雪舟くんと鉄道が中心になると考えるが、今後、形になったときにプラスしていければと考えている。

見直しのR4としているものは、R2と3に調整を完了する目標について、施策実施初年度に目標を達成するためにR4としている。地域公共交通会議に関する記載については、毎年度PDCAを行い、LR T化の検討であったり、美術館構想であったりするものを踏まえて、随時改善を図っていきたい。大きな見直しとしては、上位計画である総合計画や街づくりの計画と合わせて見直し、小さな見直しについては毎年度見直していきたい。

委員：高齢者の立場から言うと、桃太郎線の駅が整備されても駅までの交通の便が悪い、自転車には乗れないので誰かが自動車に乗せていかなければならない。私の地域でいうと服部駅になるが相当距離がある。駅が出来てもあまり使用できない方がおられる。雪舟くんについても昭和地区とか遠いところはいいが、私の地域では、「タクシーに複数人で乗った方が安い」ということでほとんど利用していない。計画はいいのだが、おそらく山手地区や江崎地区、赤浜地区、三須地区などは使える人が非常に少ないのではないかと。そのあたりを考えていただきたい。

事務局：更に高齢化が進むなかで、雪舟くんの充実も計っていくが、新たな公共交通ということで、地域主体での公共交通の創設や、今、発言にあったタクシーのグループ利用に市が補助を行っているところもある。地区によってニーズが違うので、複数の形態について考えていきたい。

委員：(P92の3)パーク&ライド、駐車場については駅のことしかないが、現在、バス停のパーク&ライドを行っているところもある。二次交通網の中に視野に入れて計画していると思うが、駅からバスに乗って行くもので失敗した例があり、駅から先が長い場合、逆の帰りが何時に駅に来るのか分か

らない。バスが30分、40分遅れて来て待つために結果、バスをやめたという路線もあり、現在休止中で復活は難しいと思う。駅からバス、パーク&ライドの場所までがそんなに遠くないところは、結構利用があると思うが、そのあたりはどう考えているのか。

事務局:バス停のパーク&ライドは、待合所等の整備については、定時型の導入と併せて考えてきたい。

バスの時間が合わないことがあるということについては、市だけでは取り組むことはできないが、バスの運行状況、ロケーション的なシステムの導入について、事業者と一緒に検討していきたい。

委員:井原鉄道は地域の皆様の日常の足でもあるが、広域で見た場合、岡山市を起点として総社市へ、岡山県南西部から広島県南東部を結ぶ広域の交流軸であるという意識の基に事業を進めている。その中でP100の目標数値としては、人口減少が進む中でも現状維持していくという目標となっており感謝をしている。具体的に取り組んでいくものとしては、井原鉄道沿線地域と総社市には様々な観光面を始めとした連携に取り組んでいくことを考えている。

広域の交流軸と見た場合、サイクリングについては、しまなみ海道が世界的なブームとなっており、総社市では吉備路自転車道があり、サイクリストが楽しむための役割が果たせるのではないかと考えている。

二次交通については、P99の「自動運転の検討推進」ということで、将来的に普及した場合には鉄道事業者も背骨としての役割を果たしながら事業を進めていきたい。意欲的な計画を入れているなかで、これからも一緒に取り組んでいきたい。

委員:観光面や高齢者の移動の話があったが、尾道市ではグリーンスローモビリティとしてカートで尾道駅から浄土寺まで運行している。また、福山市の鞆の浦は道路が狭隘であるので、グリーンスローモビリティを活用して高齢者の移動を行っている。今年の3月頃からは、福山城周辺を5人乗りのグリーンスローモビリティが15分間隔で周回すると聞いている。計画の中にはないが、今後考えていけば、観光面は高齢者の移動にとっても寄与するのではないか。

委員:分かりやすいものが出てきたので、委員から細かい意見が出てきたのだと思う。改めて見ていて気になったことがあり、一つ目は福祉交通の部分が大きな穴になっている。具体的にはP1に計画の位置づけがあり、「総合交通戦略」であるので、福祉交通も入っていなければならないが、ほとんど障がいがない方の生活交通について主に記載されている。車いすやストレッチャーを利用している方をどうするか。そこまで入ってくるのか。この計画の守備範囲はどこなのか明確にしておかなければならないと思った。今日までの私の認識では、福祉の部分については別に計画があり、「総合交通戦略」はその外側の話であるというイメージだったが、雪舟くんも車いすの方が乗れるとするのであれば、福祉有償運送も守備範囲に入ってくるのではないか。このあたりがどうなってくるのか。

P52～53に「公共交通空白地帯の状況」があるが、公共交通空白地帯をなくすために総社市は雪舟くんを導入した。雪舟くんを公共交通と考えると空白地帯となつてはいないと思う。これは駅生圏とバス停生圏と人口密度、高齢化とどう関係があるかという図であると思っている。「空白地帯がまだこんなにたくさんある」となると、雪舟くんとは一体何なのかとなるので、「駅勢圏とバス停勢圏と人口メッシュの関係」とするのは良いと思う。P27の2章では雪舟くんのことがあるが、地図のうえに、雪舟くんの4つのエリアと共通エリアを記載すると「全市で雪舟くんを運行している」ということが分かる。雪舟くんを運行しているうえで、更に改善していくという計画であるので、総社市の一番の特徴である市域全体でやっていることを主張してもいいのではないか。

中間年の設定がR4については確かに疑問となる。計画を見直す期間がR7であるなら目標値はR

6年にするのが良いのではないか。スタートの地点で2～3年で検討して4年目に開始するので評価しておくことはやぶさかではないが、見直しはR7であり、中間の中間があっても問題ないので「段階的なチェックをする」と記載があった方がいいのではないか。

委員：ここまで具体的に計画が出来上がったのは皆様からのご意見の賜物である。お願いとしてはP100のところの10年掛けての目標値があるが、この数値を達成することが目標ではなく、数値を達成する過程、結果としてP82にある課題点や現状の項目が少しでも減って、「利便性があがった」「移動しやすくなった」「住みやすい総社市になった」という声が増えることが、この計画の最終的な目的となる。そこを目指して10年というスパンになるので皆様から専門的なご意見をいただきながら、一緒に進めていきたいと思うので、引き続きご協力、ご意見をいただきたいと思う。

委員：概要的なものが福祉関係では何も見えない。部長の発言にあったように「皆が住みやすい。使いやすい。」、障がい者が使いやすいということは皆が使いやすいので、そのあたりの基本だけは押さえ、これからの計画を展開してもらいたい。そのためには、前の年からローリングをするわけだが、「人口がどれだけ増えた」だけでなく、「どんな人が増えたか」「どこの地区の人がたくさん利用するようになったのか」、その具体的な実態調査をしていかなければならないのではないか。

委員：雪舟くんの利用者で例えば病院に行くとすると、そのあとに買い物に行きたいが利用ができない。タクシーを利用するしかない。周辺部から中心部に来て、第二の目的地に行くことができない。そういう人をどうするか。

福祉の関係で、自治体が施設の車両を活用しているのを新聞で読んだことがある。そのようなネットワークを充実させれば、障がい者の方などは雪舟くんでなくても利用できるのではないかと思う。

議題「3. その他」

事務局説明

本日の意見を基に修正をさせていただく。パブリックコメント（令和2年2月25日から3月16日までの3週間）までも、委員から修正の意見や、庁内関係各課から数字や表現の変更等、軽微な変更があった場合には、会長・副会長に相談のうえ委員に連絡をさせていただきたい。

また、任期が令和2年1月31日までの委員がおられるが、計画策定まで引き続きお願いしたい。またその後の進捗管理にもご協力をお願いしたい。